

2023 年度 部局 FD 活動報告

商学部・経営学研究科

<p>1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）</p> <p>教育の内部質保証委員会（研究科長、副研究科長、副研究科長、研究審議会第 5 号構成員）</p> <p>同委員会にて年度毎に FD 研修について実施内容検討</p>		
<p>2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催</p>		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2023 年 10 月 11 日	高等教育研究開発センターの星野聡孝氏をお招きし、Moodle およびていら・みすの利活用の方法についてご講義いただいた。	36 名
<p>3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催</p>		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第 1 回（*月*日）～について」「第 2 回…」と記載）	委員の人数
教育の内部質保証委員会	第 1 回（5 月 17 日）2022 年度後期成績分布状況の確認について	4 名
	第 2 回（6 月 14 日）2022 年度後期科目に関するアンケート実施について	4 名
	第 3 回（7 月 18 日）2022 年度後期科目に関するアンケート結果について	4 名
	第 4 回（9 月 5 日）2022 年度後期授業振り返りの結果について	4 名
	第 5 回（11 月 8 日）2023 年度前期成績分布状況について	4 名
	第 6 回（12 月 13 日）2023 年度前期科目におけるアンケート結果について	4 名
<p>4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績不振の学生に対する学習相談 一定の基準にもとづいて成績不良者（留年・仮進級生）をリストアップし、専門ゼミナールに所属している学生についてはゼミ教員が、専門ゼミナールに所属していない学生については、1 回生時のプロ・ゼミナール担当教員や教務委員等が直接面接・連絡し、学生の状況を把握するとともに、学力向上の方法について共に考える機会を作った 経営学会主催の大学院生向け研究会の実施 2023 年 7 月 24 日、15:00-16:30（学術情報総合センター 9 階・情報教育実習室 9C） 参加者約 30 人（大学院生・教員） 大学院生向け研究会は、経営学研究科の大学院生（主に新生）向けに開催しており、若手教員である 		

高木修一先生が報告された。大学院進学から現在までの体験を交えながら、研究上の課題や解決策など広く「研究の方法」について紹介し、大学院生や教員からの質問に答えて懇談した。大学院生にとっては、研究の方法を学ぶ良い機会になった。

・『CORE（学生論文集）』優秀論文の表彰

2023年10月17日

受賞者：専門ゼミナールの5チーム

『CORE・学生論文特別号2023』に掲載された論文26本の選考を行い、優秀論文5本を決定。受賞者は商学部ホームページにて発表した。商学部の専門ゼミナールでの学生の勉強意欲を高めるための試みであった。

・令和5年度商経人権研修会

日時：2023年12月13日（水）13:00～13:50（オンライン開催）

テーマ：公害問題の現在

2023年9月、大阪地裁は水俣病被害者の集団訴訟で、原告全員勝訴の判決を言い渡した。福島原発事故でも集団訴訟が継続しているが、これも現代の公害事件とみることができる。このように公害問題は現在進行形の人権課題である。他方で、公害激甚期を体験した被害者が高齢化していくにつれ、被害者運動の記録と記憶を継承していくことも同時に課題となっている。こうした多面的課題を抱える「公害問題の現在」について話題提供を受け、議論を深めた。

司会：明戸隆浩（経済学部教員）

話題提供者： 除本理史（商学部教員）、林美帆（商学部客員研究員、公益財団法人水島地域環境再生財団研究員）

両学部から62人が参加した。

・優秀GPA学生の表彰

3月22日の学位授与式で表彰を行う予定。

5. 成績GP分布、GPCデータの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）

教育の内部質保証委員会で成績分布を確認し、不合格が2割以上の教員を対象に原因分析と改善策に関するアンケートを実施する。アンケート結果を教授会で報告する。

6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください）

・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 （ 36 ）人

・所属内の専任教員の人数 （ 40 ）人

7. その他、追記事項

特になし。